

田上の12か年教育の 「これまで」と「これから」

平成22年4月、田上町は、町立竹の友幼稚園開園を機に、幼稚園、小学校、中学校をつなぎ、家庭、学校、地域をつなぐ「田上の12か年教育」を構想して、「田上の子は田上で育てる」教育に取り組んできました。

平成29年4月、田上町は、「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用して、これまでの「開かれた学校」を「地域とともにある学校」に転換させていきます。

1 これまでの学校評議員会制度による「開かれた学校」

文部科学省は、「学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図っていく」ことを目指して、学校評議員会制度による「開かれた学校」づくりを推進してきました。

「田上町の12か年教育」は、本制度の仕組みを活かしてキャリア教育推進協議会を町内に設置したり、学校運営計画や地域連携などについて保護者や地域の皆さんからご意見をいただいたり、ご理解やご協力を得たりして、田上町の特色ある教育活動を展開してきました。

2 これからのコミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校」

現在、文部科学省は、「開かれた学校」から一歩前進し、学校は地域でどのような子どもを育てるのが、何を実現していくのかという目標やビジョンを保護者、地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育て「コミュニティ・スクール」の仕組みを取り入れた「地域とともにある学校」を推進しています。

コミュニティ・スクールの特徴

- これまで取り組んできた学校評議員会制度などの学校を支援する仕組みを土台にします。
- 学校、保護者、地域の皆さんなどで組織する「学校運営協議会」を各学校に設置して、学校運営の基本的な方針について承認します。



全国で、幼稚園109、小学校1,819、中学校835、義務教育学校7、高等学校25、特別支援学校11の計2,806校がコミュニティ・スクールに取り組んでいます。(平成28年4月1日現在)

新潟県では、刈羽村、見附市、妙高市、糸魚川市、上越市、聖籠町、湯沢町が取り組んでいます。

3 これからの田上の12か年教育 「田上コミュニティ・スクール」

「幼稚園、小学校、中学校の縦軸の連携」と「学校、保護者、地域の皆さんの横軸の連携」の仕組みが、「田上の12か年教育」の特色です。

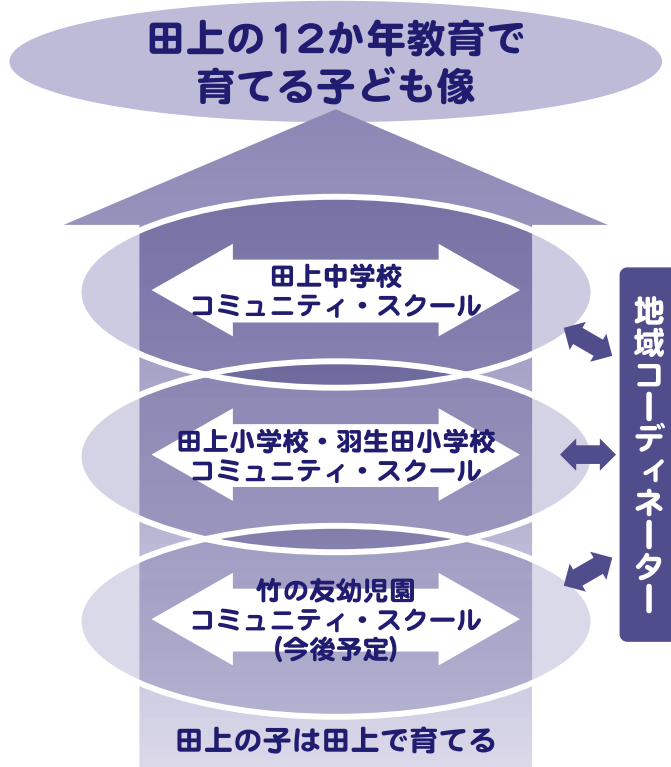
「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用することで、横軸の連携を今以上に充実させることができます。縦軸と横軸の連携の充実で相乗効果をつくり出すことが、「田上コミュニティ・スクール」の特徴のひとつです。

「田上コミュニティ・スクール」の仕組みを活用して、オール田上で子どもを育てる「田上の12か年教育」を、より豊かで確かな教育に変容させていきます。

田上コミュニティ・スクールの 特 徴

- 1 園校長はどのような子どもを育てるのか、何を実現するのか、具体的な取組、成果などの目標やビジョンといった**学校運営を保護者や地域の皆さんに説明**して、学校課題や「こんな子どもに育ててほしい」という願いなどを**地域全体で共有**できるようにします。
- 2 「**学校運営協議会**」の皆様から、園校長の説明にご意見、ご支援をいただき、園学校はそれを園学校運営に反映させます。そして、園学校、保護者、地域が同じ方向性をもって、オール田上で田上の子どもを見守り、育てていきます。
- 3 **地域コーディネーター** 1名を配置して田上の素材を教材化し、子どもたちが多様な経験をしたり、たくさんの方々との触れ合いを通して田上を学んだりできるようにします。

「田上コミュニティ・スクール」 の仕組み



地域コーディネーターの主な役割

- 学校と地域の連絡調整
- 学校の支援ニーズの把握、調整
- 学校運営協議会の情報発信
- 地域素材の教材化支援

子どもや園学校が抱える課題の解決、そして、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠です。



「田上の12か年教育」並びに「田上コミュニティ・スクール」の詳細については、別紙パンフレットをご覧ください。